

2011年7月10日

「避難所の仕切り」から見えること

山舘圭子

避難所では、プライバシーが確保できない環境でストレスがかかると指摘されており、仕切りの必要性が叫ばれています。私が行った避難所には、仕切りがない所、ダンボールで1M位の低い仕切りを使っている所と様々でした。

私は、実際に避難所に行くまでは、仕切りは必要なものだと考えていました。

ある避難所の自治会の方は、「皆さん、仕切りが必要でしょう。」と持って来るのですが、ここにいる方、全員に聞いた結果、「ここでは仕切りは必要ない。」ということになりました。逆に、持ってくる方に聞きたいです。「1人で避難されている人はどうやって仕切るのですか？」

その避難所では、コミュニティーが出来、お互いに声をかけあい、支えあって生活しており、一人で避難されている人も孤立しないような工夫がされていました。

支援者側の視点ではなく、何よりも優先されるべきは当事者の視点であることを思い知らされると同時に、日々の我々の臨床と同じだと痛感しました。

被災地支援は、正にリハビリテーション。復権に向け、一人一人が歩いていかれる中で、支援者は何をすべきか、臨床の原点を見た思いです。